

SUNTORY

SUNTORY BEVERAGE & FOOD

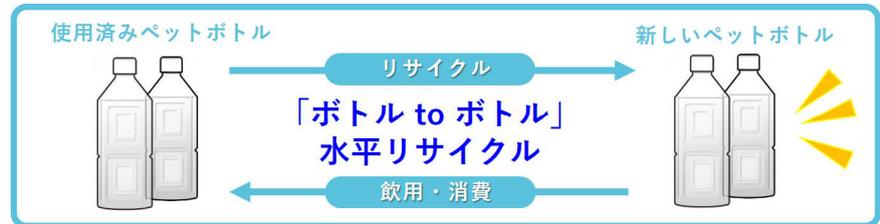
No.SBF1419 (2023.9.20)

鹿島アントラーズ×サントリー 「ボトル to ボトル」 水平リサイクルを開始

— 「鹿島アントラーズ」の本拠地である「カシマサッカースタジアム」にオリジナルのリサイクルボックスを設置し、来場者に分別投入の啓発を実施 —



©1992 K.A.F.C



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/softdrink/news/pr/> に掲載しています。

サントリー食品インターナショナル（株）は、サントリーグループがオフィシャルパートナーを務める「鹿島アントラーズ」※1とともに、カシマサッカースタジアム内で集められた使用済みペットボトルを回収して新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトル to ボトル」水平リサイクル※2を9月24日（日）から開始します。

※1 株式会社鹿島アントラーズFCが運営するプロフットボールクラブ

※2 使用済み製品を原料として用いて同一種類の製品につくりかえるリサイクルのこと

●本取り組み実施の背景

サントリーグループは、2030年までにグループが使用するすべてのペットボトルについて、リサイクル素材と植物由来素材等100%に切り替え、化石由来原料の新規使用をゼロにするという目標を掲げています。

鹿島アントラーズは、フットボールを愛するアントラーズファミリーとクラブの恒久的なスローガンであるFootball Dreamを追い求めるとともに、「循環型社会の実現／気候変動への対応」「地域活性化」を経営方針の重点テーマに掲げ、環境・社会・ガバナンスを考慮したESG経営に取り組んでいます。

今回、「リサイクル適性が高く、再資源化の仕組みが整っているペットボトルを資源として循環させていくことで持続可能な社会の実現に貢献する」という両社の思いが一致し、このたびの取り組みに至りました。

●本取り組みについて

カシマサッカースタジアムで回収した使用済みペットボトルを、当社の飲料用ペットボトル容器として再生・使用することで、「ボトル t o ボトル」水平リサイクルを実現します。今回の取り組みにあたり、鹿島アントラーズと協働し、新しくクラブカラーでデザインされた、オリジナルリサイクルボックスをスタジアム場内3カ所に設置し、9月24日（日）にカシマサッカースタジアムで行われる明治安田生命 J 1 リーグ第 28 節鹿島アントラーズ対横浜 F・マリノス戦より、パネルなどで来場者の方々にペットボトルの分別投入の啓発を実施します。J リーグ創設時からの日本有数のプロサッカークラブ「鹿島アントラーズ」の試合を通じて、ファンの方を中心に多くの方々に、「ペットボトルは何度も循環する資源であること」をお伝えしていきます。

●株式会社鹿島アントラーズ F C

前身となる住友金属工業蹴球同好会は 1947 年に大阪で結成され、後に住友金属工業蹴球団と改称。1975 年に当時の茨城県鹿島町へ移転。1991 年に「鹿島アントラーズ」と改称し、1993 年開始の J リーグオリジナルメンバーとなった。アントラーズの ANTLER は英語で「鹿の枝角」の意味。鹿島神宮の鹿にちなみ、枝角は茨城県の「茨」をイメージしたもの。鹿の枝角は鋭く強いもので、勇猛果敢に戦い勝利を目指すチームを意味し、エンブレムのモチーフにもなっている。

<https://www.antlers.co.jp/>



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/softdrink/news/pr/> に掲載しています。

サントリーグループは、2012年に国内清涼飲料業界で初めてリサイクル素材100%のペットボトルを導入^{※3}したことを皮切りに、従来よりもCO₂排出量を低減する世界初の「FtoPダイレクトリサイクル技術」を開発^{※4}するなど、長年にわたって技術革新を進め、積極的に「ボトル to ボトル」水平リサイクルを実用化・推進してきました。

2019年策定の「プラスチック基本方針」で掲げた、“2030年までにグローバルで使用するすべてのペットボトルに、リサイクル素材あるいは植物由来素材等を使用することで、化石由来原料の新規使用をゼロにする”という「ペットボトルの100%サステナブル化」の目標達成と持続可能な社会の実現に向け、引き続き活動を推進していきます。

※3 メカニカルリサイクルとして

※4 協栄産業（株）など4社で共同開発

▽本件に関するお客様からの問い合わせ先

サントリー食品インターナショナルホームページ <http://suntory.jp/sbf/>

以 上

水と生きる SUNTORY

「水と生きる」は、私たちがお客様や社会と交わす約束です。
貴重な水を守り、水を育む自然環境を次世代につなぐこと。商品やサービスを通じて人々の心を潤すこと。
水のように柔軟に力強く新たな価値創造に挑戦すること。
これらの約束を果たすため、私たちは様々な活動に取り組んでいます。